

健康にアイデアを

meiji

2021年度 第1四半期決算説明資料

対象期間：2021.4.1-6.30

2021年8月12日

2021年度 第1四半期連結決算のハイライト

(億円)	20年度 1Q実績	21年度 1Q実績		21年度 上期計画	
		前年同期比	上期計画 進捗率		
売上高	2,811	2,359	△16.1% △452	46.7%	5,050
(参考：売上高)	2,376※	2,359	△0.7% △17	—	—
営業利益	231	186	△19.6% △45	36.5%	510
営業利益率	8.2%	7.9%	△0.3pt	—	10.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	133	124	△6.6% △8	40.3%	310
E P S	92.17円	86.09円	△6.08円	—	213.65円

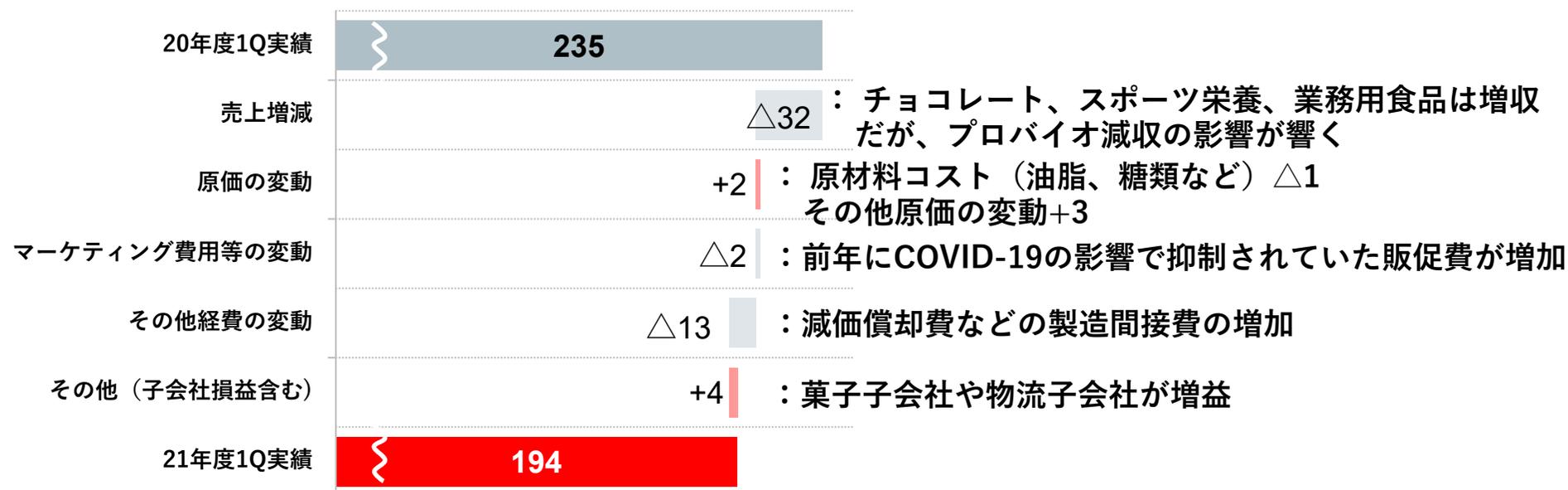
● 1Q実績：減収減益

- 収益認識基準適用の影響を除いたベースの売上高は、食品は減収、医薬品は増収
- 営業利益は食品、医薬品ともに減益
- 四半期純利益は減益。税前利益と特別損失が減少したことで、減益幅は一定程度に留まった

食品：2021年度 第1四半期 決算概要

(億円)	20年度 1Q実績	21年度 1Q実績	前年同期比	上期計画 進捗率	21年度 上期計画
売上高	2,444	1,998	△18.2% △445	48.8%	4,098
(参考：売上高)	2,024※	1,998	△1.3% △25	—	—
営業利益	235	194	△17.5% △41	45.3%	429

営業利益 増減分析



食品：2021年度 第1四半期 事業別営業利益 増減分析 **meiji**

(億円)	食品 全体	ヨーグルト・ チーズ	ニュートリ ション	チョコレート・ グミ	牛乳	業務用 食品	フーズン・ 調理食品	海外	その他・ 国内子会社
20年度1Q営業利益	235	155	41	15	△7	△0	15	2	13
売上増減	△32	△49	+17	+7	△8	+11	△9	+0	△2
原価の変動	+2	+1	△0	△1	+0	+1	△2	△1	+3
経費等の増減	△15	△3	△10	△6	+13	△8	+3	△3	△1
マーケティング費用 等の変動	△2	△2	△6	△0	+10	△6	+2	+0	+0
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△13 (△1)	△1	△3	△6	+3	△2	+1	△3	△2
その他 (子会社損益など)	+4	△4	+0	+5	+0	+0	△2	+2	+2
21年度1Q営業利益	194	100	48	21	△0	3	5	1	14

食品：2021年度 第1四半期 主な事業別概況

■ ヨーグルト・チーズ

(億円)	21年度 1Q実績	前年同期比
売上高	621	△11.0% △77
営業利益	100	△35.2% △54

【売上高】	対20年度1Q 増減率	対19年度1Q 増減率
プロバイオ	△16.8%	△2.2%
ヨーグルト	△5.9%	△2.5%
チーズ	△4.9%	+0.1%

● 市場

- ヨーグルト：前年の反動で△8～9%
 - チーズ：前年の反動で△8～9%
- 月を追うごとにマイナス幅は縮小

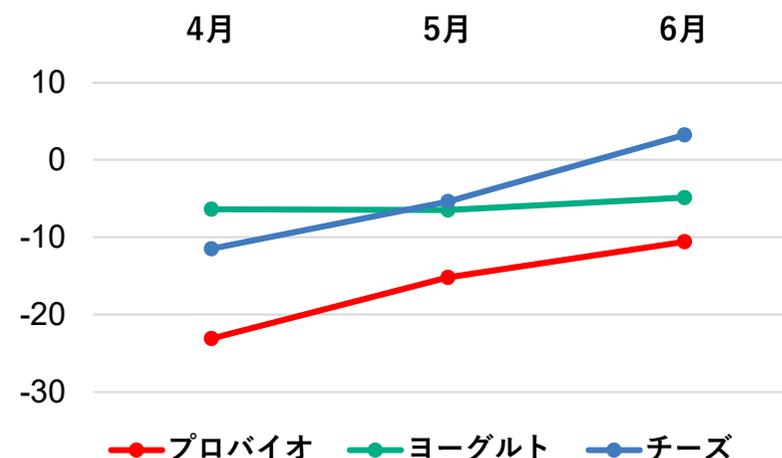
● 売上高

巣ごもり消費で大きく伸長した前年の反動で減収。ただし、「R-1」とチーズは対19年度比では増収

● 営業利益

減収の影響で大幅減益

当社月次売上高の対前年同期増減率（%）



食品：2021年度 第1四半期 主な事業別概況

■ ニュートリション

(億円)	21年度 1Q実績	前年同期比
売上高	305	+10.1% +28
営業利益	48	+18.1% +7

- 市場
 - ・ スポーツプロテイン：+34~35%
 - ・ 流動食：病院・在宅ともに伸長
- 売上高

乳幼児ミルクは減収だが、「ザバス」や「ザバスミルク」、流動食は増収
- 営業利益

販促費や減価償却費は増加したが、増収が寄与して増益

■ チョコレート・グミ

(億円)	21年度 1Q実績	前年同期比
売上高	250	+4.2% +10
営業利益	21	+33.2% +5

- 市場
 - ・ チョコレート：△1~2%。ナッツ好調、前年の需要増の反動で板チョコ群は減少
 - ・ グミ：+13%で回復基調
- 売上高

大袋含む健康志向チョコ、ナッツチョコが売上成長をけん引。グミも回復
- 営業利益

減価償却費は増加したが、増収効果で大幅な増益

食品：2021年度 第1四半期 主な事業別概況

■ 牛乳

(億円)	21年度 1Q実績	前年同期比
売上高	217	△8.7% △20
営業利益	△0	— +6

● 市場

- 前年の反動で△8~9%

● 売上高

巣ごもり消費で伸長した前年の反動に加え、低採算商品の削減の影響で減収

● 営業利益

販促費の減少に加え、生産体制や品目数の最適化による製造間接費の低減が収益性向上に寄与。黒字化に向けて着実に進展

■ 業務用食品

(億円)	21年度 1Q実績	前年同期比
売上高	165	+20.7% +28
営業利益	3	— +4

- COVID-19の影響を受けた前年からは売上高・営業利益ともに回復

■ 海外

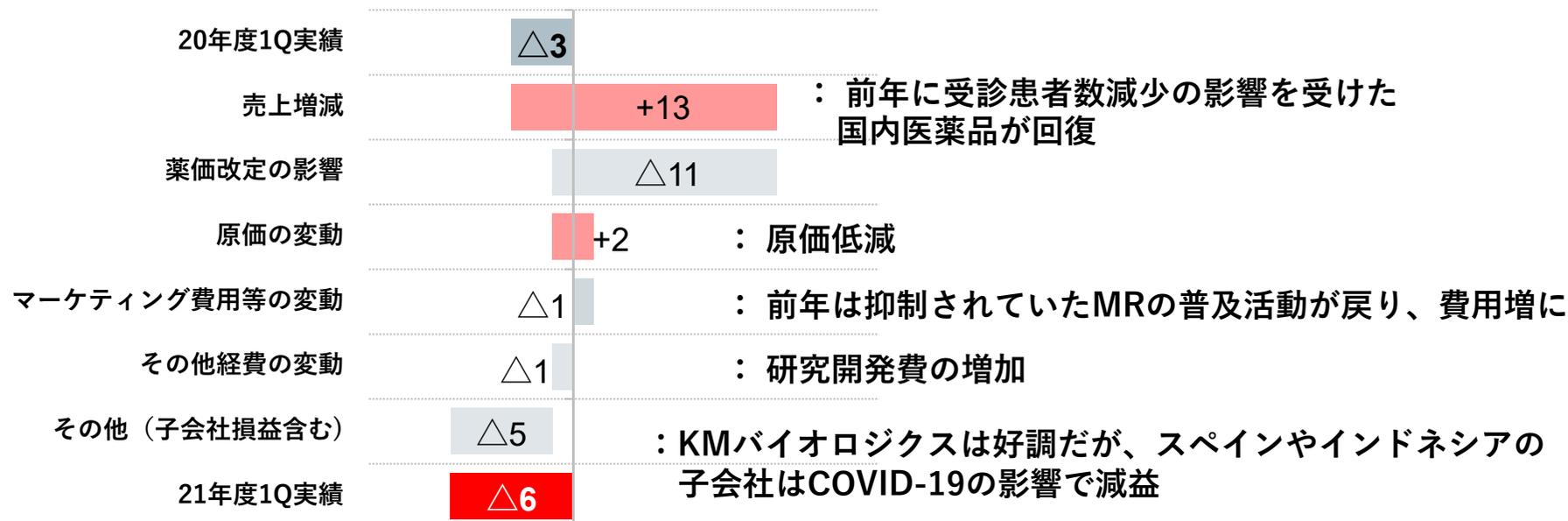
(億円)	21年度 1Q実績	前年同期比
売上高	123	+11.3% +12
営業利益	1	△58.9% △1

- 中国事業の売上高は大幅伸長。体制強化のためのコスト増により、海外事業全体では減益

医薬品：2021年度 第1四半期 決算概要

(億円)	20年度 1Q実績	21年度 1Q実績	前年同期比	上期計画 進捗率	21年度 上期計画
売上高	371	362	△2.3% △8	38.0%	955
(参考：売上高)	355※	362	+1.8% +6	—	—
営業利益	△3	△6	— △2	—	85

営業利益 増減分析



医薬品：2021年度 第1四半期 主な事業別概況

■ 国内医薬品

(億円)	21年度 1Q実績	前年同期比
売上高	182	△0.8% △1
営業利益	△7	— +4

● 市場

医療機関受診患者数が減少した前年と比べると診療科別レセプト件数は大幅増

【20年度累計】小児科△27%、耳鼻咽喉科△22%

【21年4月度】小児科+40%、耳鼻咽喉科+32%

【21年5月度】小児科+62%、耳鼻咽喉科+32%

(出所) 社会保険診療報酬支払基金

● 売上高

抗菌薬は前年反動で大幅増収。「シクレスト」「ピラノア」も好調に推移し、薬価改定の影響をオフセット

● 営業利益

コストコントロールに努めたことで増益

■ 海外医薬品

(億円)	21年度 1Q実績	前年同期比
売上高	105	+1.9% +1
営業利益	1	△88.0% △10

● 売上高

CMO/CDMO事業は好調。前年にCOVID-19の影響で需要増があったスペインや、インドネシアの子会社は減収

● 営業利益

一部子会社の減収の影響で減益に

医薬品：2021年度 第1四半期 主な事業別概況

■ ヒト用ワクチン

(億円)	21年度 1Q実績	前年同期比
売上高	47	△2.1% △1
営業利益	3	— +4

● 売上高

アストラゼネカ社のCOVID-19ワクチン製剤化による収入が寄与したが、四種混合ワクチン「クアトロバック」の減収やプレパンデミックインフルエンザワクチンの受託製造が無かったことで、全体としては減収

● 営業利益

棚卸評価減の減少などにより増益

◆ 医薬品トピックス：

「選択と集中」の取り組み

- ・ DMB-3115 に関するインド・インタス社とのライセンス契約締結（7/21発表）
- 今後、開発や販売に応じたマイルストーンおよび製品販売に応じたロイヤルティ収入を獲得

- ・ DMバイオ株式の譲渡（7/27発表）
- 持分法適用会社のDMバイオ株式を東亜グループに譲渡。Meiji Seika ファルマはバイオシミラーの開発に経営資源を投入することに注力

【株式譲渡による業績影響】

2Q：特別利益 約25億円計上見込

2021年度 連結計画：変更なし

(億円)	20年度実績		21年度計画			
	上期	通期	上期	前年同期比	通期	前年同期比
売上高	5,849	11,917	5,050	△13.7% △799	10,240	△14.1% △1,677
(参考：売上高)	4,933※	10,071※	5,050	+2.4% +116	10,240	+1.7% +168
営業利益	504	1,060	510	+1.2% +5	1,075	+1.4% +14
営業利益率	8.6%	8.9%	10.1%	—	10.5%	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	287	656	310	+7.9% +22	670	+2.0% +13
EPS	198.05円	452.52円	213.65円	+15.6円	461.76円	+9.24円
1株当たり配当金	75円	160円	80円	+5円	160円	—
配当性向	—	35.4%	—	—	34.6%	△0.8pt
ROE	—	11.1%	—	—	10.5%	△0.6pt
ROIC	—	10.0%	—	—	9.5%	△0.5pt
設備投資額	332	679	589	+77.3% +257	1,214	+78.9% +535
営業CF	408	1,236	—	—	1,343	+8.6% +106
フリーCF	△195	305	—	—	171	△43.9% △134

第2四半期以降の経営のポイント

- **食品セグメントの事業環境と当社の方向性**
 - ・ 消費支出は前々年の水準には戻っておらず、力強さに欠ける
 - ・ 原材料コストが上昇傾向にあり、今後のリスク要因
 - ・ 短期的には前年反動が業績に影響するが、中長期的には「価値創造」がポイント→健康・栄養をキーワードに、社会課題解決型の高付加価値戦略を推進
- **COVID-19ワクチンの取り組み**
 - ・ 不活化ワクチンの開発はP3試験の準備中。22年春には実生産できるよう、生産体制の整備も進行
 - ・ アストラゼネカ社のワクチンの製剤化はほぼ終了。8月から国内の保管・配送・安全性情報の収集業務も開始
- **ROIC視点での経営改善**
 - ・ ROIC活用は始まったばかりだが、経営効率化は着実に進める

参考資料

2021年度 第1四半期 連結財政状態

(億円)	21年6月末 実績	前期末比	主な内容	
流動資産	4,539	+6.6% +279	・現金及び預金 (+307) ・原材料及び貯蔵品 (+21)	・商品及び製品 (+44) ・受取手形及び売掛金 (△125)
固定資産	6,435	+0.4% +26	・繰延税金資産 (+20) ・建設仮勘定 (+19)	
資産合計	10,975	+2.9% +305	—	
流動負債	2,786	+10.1% +256	・短期借入金 (+289) ・返金負債 (+143) ・未払費用 (△199)	・コマーシャル・ペーパー (+200) ・未払法人税等 (△142)
固定負債	1,550	+0.3% +4	・社債 (+100) ・長期借入金 (△89)	
負債合計	4,337	+6.4% +261	—	
株主資本	5,990	+0.3% +18	・資本剰余金 (+17)	
その他の包括利益 累計額	288	+19.3% +46	・為替換算調整勘定 (+53)	
非支配株主持分	358	△5.4% △20	—	
純資産合計	6,637	+0.7% +44	—	
有利子負債	1,517	+49.1% +499	・短期借入金 (+289) ・社債 (+100)	・コマーシャル・ペーパー (+200) ・長期借入金 (△89)
自己資本比率	57.2%	△1.0pt	—	

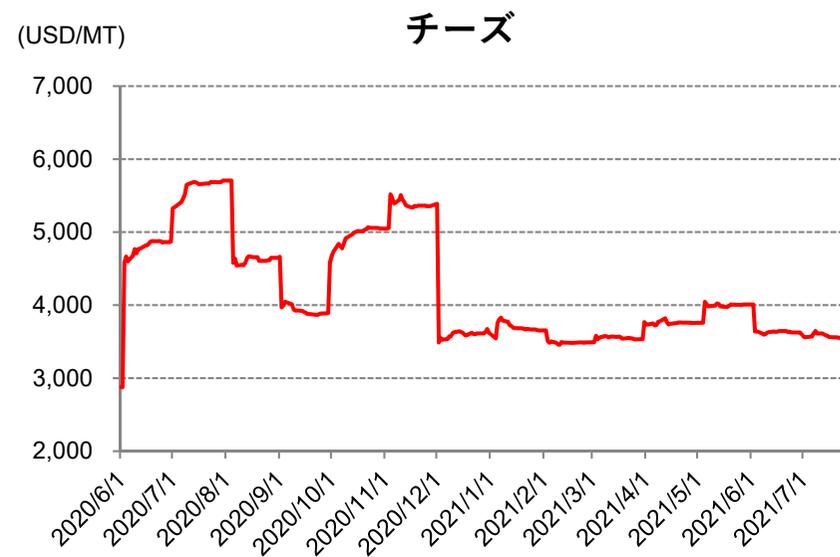
2021年度 第1四半期 連結C F

(億円)	21年度 1Q実績	前年同期比	主な内容
営業キャッシュフロー	42	△77	<ul style="list-style-type: none"> ・未払費用の減少 (△139) ・法人税等の支払額 (△99) ・税金等調整前四半期純利益 (△31) ・返金負債の増加 (+143) ・仕入債務の増加 (+46)
投資キャッシュフロー	△124	+59	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の受取額 (+42) ・投資有価証券の取得による支出 (+19) ・有形固定資産の取得による支出 (+7) ・有形及び無形固定資産の売却による収入 (△6)
フリーキャッシュフロー	△82	△17	—

食品：2021年度 第1四半期 主力品の売上動向

(億円)	20年度 1Q実績	21年度 1Q実績	21年度		21年度 上期計画
			前年同期比	上期計画 進捗率	
ヨーグルト	225	212	△5.9%	49.6%	427
プロバイオティクス ヨーグルト	304	253	△16.8%	45.8%	552
市販チーズ	79	75	△4.9%	49.2%	152
チョコレート	193	198	+2.8%	48.6%	407
乳幼児ミルク・流動食	148	146	△1.1%	48.7%	300
スポーツ栄養 (ザバスミルク含む)	90	117	+30.9%	47.4%	248
市販・宅配牛乳	220	198	△10.2%	48.4%	408
市販アイスクリーム	115	104	△9.8%	41.1%	252

主要輸入原料相場の動向



健康にアイデアを meiji

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。